

## 山の恵み・栃の実

農家の縁側に栗の皮をむいた実を天日干しにしていた。聞いてみるとそれは栗ではなく栃の実だとのこと。これまで栃餅、栃饅頭はたまに食べたことはあっても、この年齢にして初めて見る栃の実であった。

この木は成長すると 25m~30m にもなり、直径 1m を超えるものもある。したがって栃の実を取るには簡単ではない。秋になるとほとんどが下に落ちたものを拾う以外にない。また開花時期は 4 月下旬から 5 月下旬にかけて、ロウソク状の白い花が賑やかに盛り上がって咲く。この花からは蜜が取れ「トチ蜜」として最高品質として知られている。木材は家具として楽器として使われている。日本では北海道北部、九州南部以外のほとんどの地域で自生しており、特に東北地方に顕著に見られる。



鳥取県三朝温泉の少々山奥に入った所に、標高 900m の一帯の山岳寺院である三仏寺がある。なかでも投入堂は垂直に切り立った絶壁に建てられ国宝に指定されている。その参道近くの農家に栃の実が干されてあったのだ。栗に似ているが苦くてアク抜きをしなければ、とても食べれたものではない。この実は食料として縄文時代の住居跡遺跡から出土されていることから、その歴史は古く山村などで日本人の主食の一角をなす地域もあったようだ。

近くに栃餅を入れたぜんざいの店があったので入ってみた。川のせせらぎを聞きながら緑と紅葉が入り混じった大自然の中で、栃の実を思い出しつつ味わった。 撮影 2014 年秋

